

人間と情報の本質探求と 人に寄り添う技術の協創

本特集では、NTTコミュニケーション科学基礎研究所が取り組む

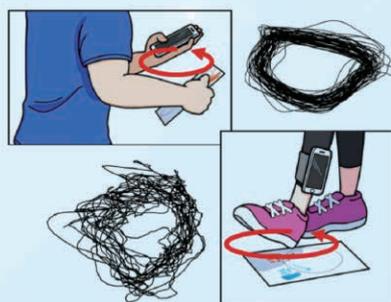
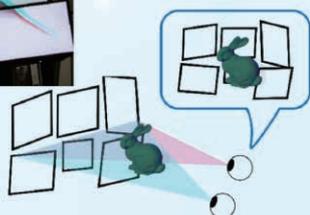
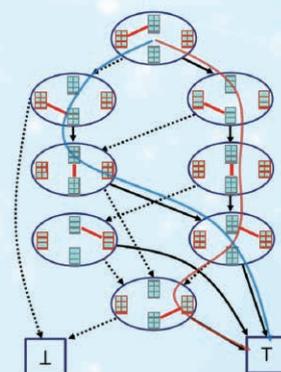
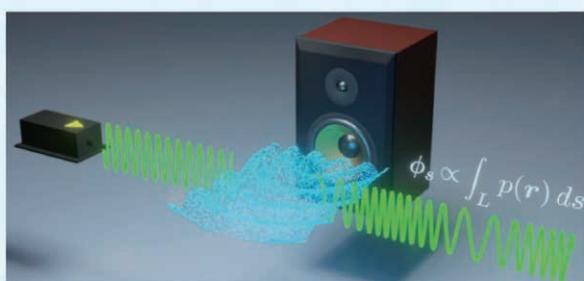
「人を深く理解し極める」人間科学の研究および、

「人の能力に迫り凌駕する」情報科学の研究などについて、

最近の取り組みの一部を紹介する。

生成AI時代におけるコミュニケーション科学研究の新展開 ——人間と情報の本質探求と人に寄り添う技術の協創に向けて—— 10

昨今急激に進歩しつつある生成AI（人工知能）の動向を踏まえ、人とAIの共存に向けたNTT コミュニケーション科学基礎研究所における最新の研究の取り組みについて紹介する。



コミュニケーション科学

圧縮計算

視覚情報処理モデル

大規模データ解析

運動制御

圧縮計算でめざす高信頼インフラ ——決定グラフを用いたネットワーク解析問題の高速な解法—— 14

膨大な数の組合せを圧縮して表現する決定グラフを用いたアルゴリズムによる、困難な解析問題の高速な解法について解説する。

人の知覚に寄り添った自然で快適な映像表示 ——人間の視覚情報処理モデルに基づく表示映像の最適化—— 18

人間の視覚情報処理のモデル化を通じて、透過型ディスプレイなどの情報提示を、利用シーンによらず自然で快適に実現するアプローチを紹介する。

たくさんのデータの中から素早く知識を発見——計算の枝刈りによる 高速化手法を活用した厳密性を担保した大規模データ解析—— 23

計算の枝刈りを行うことにより高速性と厳密性を両立させたデータ解析手法の代表的な例を紹介する。

ヒトの動きが“ばらつく”ことの本質 27

「脳が筋を動かすタイミングの乱れ」が運動をばらつかせる要因であり、手足の器用さに関係することを示した研究について紹介する。

主役登場 錦見 亮 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 31

機械学習技術で病気と無縁の社会をめざす